

No.	件名・内容	回答
21	<p>県立小児医療センターの存続について</p> <p>県立小児医療センターの現在地での存続を求めます。</p> <p>(受付No.) 23_2488 (受付日) 平成24年3月14日</p>	<p>小児医療センターでは、未熟児、新生児に対する高度医療をはじめ、一般医療機関では対応困難な小児の疾患の治療を行っています。昨年発表された計画によると、さいたま新都心に移転することで、さいたま赤十字病院と連携し、母と子の高度救急救命医療と総合周産期医療の拠点となり、「こどもの総合病院」としての機能が充実し、より子どもの命を守ることができる安心・安全の拠点となるものと考えられます。</p> <p>しかしながら、現在の計画では、現小児医療センターの跡地利用など、全体像は明らかにされておりません。そこで、どのような計画になっていくのかを注視しながら、必要に応じて埼玉県への対応を検討していきたいと考えております。</p> <p>(担当) 健康推進課 (直通) 774-1411</p>
20	<p>地域福祉計画の推進について</p> <p>上尾市地域福祉計画は地域コミュニティを市民自らが再生し、自立した市民を育成していくための素晴らしい計画ですが、単に社会福祉課の一計画として狭義の解釈がされており、推進が遅れて残念でなりません。</p> <p>(受付No.) 23_2478a (受付日) 平成24年3月12日</p>	<p>平成23年度では、平成19年3月に策定した計画書の見直しを実施し、この5年間に行われた施策の達成状況について評価を行いました。進んでいない事業については、今後5年間で進むように対応を決めています。</p> <p>また、計画の中には地域毎に進める事業もあることから、ところによっては地域の実情から劇的な変化が望めない場合もあります。しかしながら、少しずつですが進んでいることを御理解ください。</p> <p>平成23年度中は、「地域福祉計画」の見直しに時間を割きましたが、平成24年度からは実践の時間であるとの認識のもとで進めていきます。</p> <p>「地域福祉計画の実行について市全体で取り組むべき」とのご意見をいただきました。本計画に限らず、行政は多分野の業務を行っているという現実から、さまざまな計画書を作成して、施策実施をしているところです。それらがあいまって、市全体のサービス向上、市勢が高まるものと認識しております。</p> <p>なお、市全体の計画の最高峰に位置するのは、あくまで「総合計画」であり、その意味からは「地域福祉計画」は「総合計画」の下位計画となります。しかし、ご指摘のとおり、計画の性格上各方面に影響が及ぶものですから、市全体、また社会福祉協議会との協働のもと進めていくべきものであると考えています。</p> <p>(担当) 社会福祉課 (直通) 775-5118</p>

No.	件名・内容	回答
19	<p>スクールゾーンの車両通行について</p> <p>介護タクシーで病院に通院しているが、7時30分～8時30分の間は送迎ができないと言われた。必要な車両の通行を認める特別通行許可書を発行してほしいです。</p> <p>(受付No.) 23_2442 (受付日) 平成24年2月10日</p>	<p>現行制度では、特別通行許可書の発行は難しいため、上尾警察署に相談のうえ、代替案を事業者に提案しました。</p> <p>案1 通院時間帯について、スクールゾーンの影響のない時間を病院、ケアマネジャーとご利用者様を含め、検討いただく。</p> <p>案2 スクールゾーンの時間帯に通院する必要があっても、事前に決められた時間であれば、事業者が許可書を求めることができる。</p> <p>案3 介護車両を緊急利用する場合には、スクールゾーン入口に立ち会う方に説明し、進入させてもらう。(緊急である場合に限って可能との回答をいただきました。)</p> <p>(担当) 高齢介護課 (直通) 775-6473</p>
18	<p>市内に耳鼻咽喉科が少ないことについて</p> <p>どこの耳鼻咽喉科も大変混み合っていて、2～3時間待ちも珍しくなく、小さい子どもがいるので待ち時間に苦労します。このため病院の数を増やして欲しい。</p> <p>(受付No.) 23_2436 (受付日) 平成24年2月7日</p>	<p>医療整備については、埼玉県が所管となっています。病院の設立に関しては、県の許認可が必要となりますが、診療所(医院)については、県への届け出だけで開設することができます。</p> <p>こうしたことから、医療機関の開設については、開設希望者が事前に(希望地での)患者数と医療機関数との需給バランスを考え、開設の有無を決定している状況です。</p> <p>そのため、市が一診療科目・一診療所(医院)を誘致することは、現時点では難しい状況ではありますが、今後、県へ医療体制の充実を要望してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。</p> <p>(担当) 健康推進課 (直通) 774-1411</p>
17	<p>人間ドックの検査項目について</p> <p>検査項目に肺機能検査も追加してはどうか。</p> <p>(受付No.) 23_2430 (受付日) 平成24年1月30日</p>	<p>本市の国民健康保険の人間ドック助成事業は、既定の検査項目により定額(37,800円)で実施し、市が20,000円を補助させていただくことで、受診する方の自己負担が17,800円となる仕組みとなっております。</p> <p>ご指摘のとおり、肺機能検査は規定の検査項目の中に含まれておりませんが、ご希望がある場合には、自己負担となりますが、国保人間ドックと同時に実施することも可能かと思われまます。</p> <p>今後は、検査項目の充実、受診する方の選択性や助成方法の改善などに関する検討が必要と考えておりますので、今回のご意見を参考とさせていただき、検討を進めたいと考えております。</p> <p>(担当) 保険年金課 (直通) 775-5136</p>

No.	件名・内容	回答
16	<p>健康情報等のごみ収集カレンダー掲載について</p> <p>ごみ収集カレンダーをA4版の予防注射等を掲載して1つの冊子にしてはどうでしょうか。</p> <p>(受付No.) 23_2333b (受付日) 平成23年11月11日</p>	<p>市では現在、予防健診・予防接種等を年3回発行の「予防健診一覧」でお知らせしているところですが、大判で使い勝手が良くないことから、A4サイズ冊子の「健康カレンダー」に変更する予定で準備を進めています。「健康カレンダー」は毎年4月発行(年1回)とし、平成24年度から発行予定です。予防接種・各種検診・健康講座などの制度のご説明や日程表を見やすく掲載し、皆様の健康増進にお役立ていただけるよう努力いたします。</p> <p>ごみ収集カレンダーと一緒にしてはどうかのご提案には、関係部署と調整のうえ検討させていただきます。</p> <p>(担当) 健康推進課(直通) 774-1411</p>
15	<p>ヒブワクチンの助成金について</p> <p>先日、桶川の小児科でヒブワクチンを接種しました。保健センターは市内の医療機関でないと助成できないとのことでした。ヒブワクチンの費用も助成してもらえないでしょうか。</p> <p>(受付No.) 23_2282 (受付日) 平成23年10月11日</p>	<p>任意の予防接種は、保護者が希望して接種を行うもので、すべて実費となりますが、国がヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防の3ワクチンの接種費の助成を決定したことにより、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの期間に限り、無料で接種できるようになりました。当市では、市内の実施医療機関で実施しています。この予防接種は、定期の予防接種と違い、埼玉県医師会との相互乗り入れ契約が整わないため、市外の医療機関で接種した場合は助成の対象となりません。</p> <p>また、ヒブ・小児用肺炎球菌の予防接種が受けられる医療機関は、市内にヒブは47か所、小児用肺炎球菌は45か所あります。接種の際には、別添のヒブ・小児用肺炎球菌の接種医療機関一覧をご利用ください。</p> <p>今後も、様々な機会を利用して、早期に定期の予防接種として位置づけるよう国、県に要望して参りたいと存じます。</p> <p>(担当) 健康推進課(直通) 774-1411</p>
14	<p>肺がん検診について</p> <p>現在、肺ガン検診は間接撮影ですが、レントゲンで早期発見を目的にしているなら直接撮影の方が良いのではないのでしょうか。費用や事務作業は増えると思いますが、被曝量も5分の1程度で済み、より鮮明な画像で早期発見の確率は上がります。</p> <p>(受付No.) 23_2281 (受付日) 平成23年10月6日</p>	<p>現在、市で実施している肺がん検診(集団検診)は、検診車にて撮影していること、集団で多数の被写体を観察する必要があることから、間接撮影を採用しております。</p> <p>ご指摘のとおり、直接撮影と間接撮影を比較すると、被曝量が少なくて済むこと、肺の状態を鮮明に映し出すことができること、ほぼ肺と同じ大きさで観察できるため病変の検出能力が高くなること、特定健診と同時実施(個別検診化)にすると各病院で受診できることから受診しやすくなることなど、直接撮影の方が優れている点が多々あります。</p> <p>市としましても、がん検診の精度をあげ、受診しやすい環境を整備することは市民の皆様健康を守るために重要なことと考えており、直接撮影や特定健診との同時実施(個別検診化)について、現在、実施に向けた協議を上尾市医師会と行っているところです。</p> <p>(担当) 健康推進課(直通) 774-1411</p>

No.	件名・内容	回答
13	<p>ペットボトルのキャップ回収とその活用について</p> <p>市は、ボランティア活動などで集めたペットボトルのキャップを回収しないのですか。</p> <p>(受付No.) 23_2272 (受付日) 平成23年9月28日</p>	<p>ご提案に関しては、環境側面、費用の側面など、考え方がいくつもあります。環境に係る負荷を軽減する意味と、このリサイクルをする経費を含めた費用の側面については、既に環境政策課からお答えさせていただいたとおりです。</p> <p>ここでは、ボランティアに対する考え方についてお答えします。</p> <p>ペットボトルのキャップの回収について、社会福祉協議会やボランティア団体に取り扱いを任せれば費用はかからないというご指摘ですが、輸送にかかるガソリン代はもちろんのこと、社会福祉協議会職員の人件費など、回収にあたっての費用は必ず発生し、その額は、回収したキャップの売却益を上回ることが見込まれます。</p> <p>ボランティア活動は、活動しようとする人が、自分自身の判断に基づき、それぞれができる範囲で行うことが基本となります。このようなお考えの方が中心となったボランティア活動の広がりを期待しています。</p> <p>市の役割は、ボランティア等の自主的活動に対し、その目的が少しでも実現できるよう、メニューの提示や場所の提供を含め、後方支援することであると考えます。ご提案いただいたペットボトルのキャップの回収運動については、ボランティア団体等の皆様の定期的な作業を必要とするような、業務に類するものとなることから、市として参画することについては、当面予定しておりません。</p> <p>(担当) 社会福祉課 (直通) 775-5118</p>
12	<p>子育ての環境について</p> <p>予防接種を受けやすくするために補助をするなど、子どもに対してもう少し考えてほしいです。</p> <p>(受付No.) 23_2229 (受付日) 平成23年8月30日</p>	<p>市では、社会情勢の影響により、母親が就労する場合の保育所入所希望者が増え続けていることから、さらなる保育所の整備が必要だと認識しております。</p> <p>子どもの一時預かりなどの制度につきましては、保護者が仕事や通院などの際に「一時保育」を利用することができますし、保育所や幼稚園、小学校（1～3年生）に通っているお子さんが、病気回復期などで集団保育が困難な時期に一時的にお預かりする「病児・病後児保育」の制度もございます。</p> <p>確かな学力を育成するための教育に関しては、国や県の基準よりきめ細やかな30人程度学級「あげおっ子アッププラン」を平成14年4月から、小学校1・2年生及び中学校1年生を対象に実施しております。</p> <p>更に平成23年4月には、市内小学校に配置しているALT（外国語指導助手）を従来の4人から16人に大幅に増員し、学習指導要領対象である5・6年生以外の児童にも、外国の生活・文化への興味を深めてもらい、外国語を使ったコミュニケーション能力の素地を育成する機会を増やしております。</p> <p>(担当) こども支援課 (直通) 775-5120</p>

No.	件名・内容	回答
11	<p>子宮頸がんワクチン無料接種について</p> <p>上尾市では高校1年まで無料と聞いていますが、他の自治体は高校3年のところもあるそうですが、どういうこと何か補助はできないのでしょうか。</p> <p>(受付No.) 23_2218 (受付日) 平成23年8月23日</p>	<p>子宮頸がん予防ワクチンの接種費助成対象年齢は中学1年から高1年生相当年齢の女子までとされています。</p> <p>お問い合わせのありました、接種対象にならなかった方への補助についてでございますが、本ワクチンは、法律に基づかない任意の予防接種（保護者が希望して接種する予防接種）であり、助成については国の施策に基づき他市の状況や財政状況を考慮して市町村独自で判断するとされておりまして、現在のところ実施する予定はない状況でございます。</p> <p>そこで、当市では、以下の理由から対象年齢を超えてしまった方には、子宮頸がん検診の受診を推奨しております。</p> <p>厚生労働省によると、子宮頸がんの主な原因は、発がん性をもつヒトパピローマウイルス（HPV）であり、100種類以上あるHPVのなかでも発がん性HPVは15種類、そのうち、16、18型という2種類の型が約60%を占めるとされておりまして、現在使用されているワクチンは、その一番多い型である16、18型のみを防ぐワクチンであり、接種をすることで子宮頸がんにかかるリスクは軽減しますが、全ての型を防ぐわけはありません。</p> <p>以上のことから、子宮頸がん予防ワクチンを接種したとしても、発がん性HPVに感染する可能性はあり、対象年齢も限られていることから、子宮頸がん検診を受診し、前がん病変（がんになる前の異常な細胞）のうちに発見することが重要であると考えております。</p> <p>市で実施している子宮頸がん検診は20歳から受診できます。子宮頸がん予防ワクチンは子宮頸がんの治療薬ではなく、定期的な子宮頸がん検診の代わりとなるものでもございませんので、是非、市の検診制度を利用させていただきたいと考えております。</p> <p>(担当) 健康推進課（直通）774-1411</p>
10	<p>児童扶養手当の不正受給について</p> <p>ひとり親家庭等を支援するために支給される児童扶養手当について、偽造離婚をして不正に受け取っている方がいます。不正受給について、第三者が民生委員や市役所へ通報した場合、対応を行うのですか。</p> <p>(受付No.) 23_2189 (受付日) 平成23年7月27日</p>	<p>児童扶養手当は、父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進に寄与するために支給し、児童の福祉の増進を図ることを目的とするものです。</p> <p>この制度では、異性の方（親族を除く）と同居して暮らしている場合や金銭的な援助（養育費を除く）を受けている場合などは、事実上の婚姻関係とみなされ、手当を受けられる資格がありません。</p> <p>市民の方などから上尾市へ不正に関する情報提供があった場合につきましては、市職員により調査を行います。調査は、家庭訪問による対象者との面接調査などです。不正受給が明らかになった際には、支給した手当を返還していただくこととなります。また、不正受給者は三年以下の懲役又は三十万円以下の罰金などの罰則を受ける可能性があります。</p> <p>(担当) こども支援課（直通）775-5120</p>

No.	件名・内容	回答
9	<p>小・中の学校給食の食材について</p> <p>小・中学校の給食には、福島に加え宮城、山形、茨城、栃木、群馬、新潟7県以外の食材を使用してください。</p> <p>(受付No.) 23_2175 (受付日) 平成23年7月14日</p>	<p>今回、福島県南相馬市の農家が出荷した肉用牛から高濃度の放射性セシウムが検出された問題を受け、上尾市教育委員会といたしましては、牛肉の給食食材の使用について今年度の献立の確認をしたところです。その結果、今年度4月から10月までの献立で牛肉を使用していないことを確認したところでございます。</p> <p>市では、市場に流通している食材は絶対に安全でなければならないと考えております。つきましては、早急に国や各生産地の自治体において、農産物等のモニタリング検査を強化徹底し、食品衛生法の暫定基準値を超える農産物等が市場に流通することのないように、あらゆる機会を通して要望していきたいと考えております。</p> <p>(担当) 学校保健課 (直通) 775-9683</p>
8	<p>学校給食の食材産地開示・公表について</p> <p>上尾市では、放射線対策における学校給食の食材産地開示・公表についてどう考えていますか。</p> <p>(受付No.) 23_2143b (受付日) 平成23年6月21日</p>	<p>給食食材の産地公表につきましては、可能性について学校及び関係部署と調整した結果、7月の給食から食材の産地上尾市ホームページで公表しております。</p> <p>ホームページへの掲載は、翌月の給食に使用される葉物野菜・肉・魚の一部の食材になりますが、前月の末日までに毎月掲載していきたいと考えております。</p> <p>教育委員会といたしましては、国及び生産地の自治体が、放射能汚染に関する暫定規制値を超えた農産物・畜産物などを出荷しないように指示しているため、現在市場に流通している食材の安全性には問題ないと考えております。</p> <p>産地を公表することにより、埼玉県産や近隣県産の食材について不安を抱く保護者の方もいらっしゃると思いますが、風評に惑わされないようにご理解を求めていますと考えております。</p> <p>(担当) 学校保健課 (電話) 775-9683</p>

No.	件名・内容	回答
7	<p>救急指定病院について</p> <p>市に救急指定病院が少なく、今後も東北地方太平洋沖地震規模の地震が起きたら不安です。</p> <p>(受付No.) 23_2126 (受付日) 平成23年6月13日</p>	<p>現在、市内の救急病院は2か所となっております。また、県が定める県央医療圏（上尾市、鴻巣市、桶川市、北本市、伊奈町の地域）圏内では、9つの救急病院となっております。</p> <p>救急病院については、救急医療に対応可能な医師の配置、検査や輸血の設備などのほか、傷病者の搬入に適した施設構造や設備用件を有していることが、法令により定められております。救急医療体制は、「埼玉県地域保健医療計画」で、一つの市域で医療を完結するのではなく、入院や手術を必要とする重症患者は、救急病院や高度医療機能を持った病院へ搬送する広域の体制を推進していくものとなっております。</p> <p>市では、市が設置する平日夜間及び休日急患診療所を新たに東側に新設する保健センターに併設し建て替えるなど、初期救急医療の充実に努めているところです。拡充に伴い、利用しやすく質の高い救急医療の提供がなされるものと期待しているところでございます。</p> <p>今後も市として、救急医療体制の充実に向け、市内中核病院や初期救急医療を担う医師会と連携し医療体制の充実に努めていく所存です。</p> <p>(担当) 健康推進課（直通）774-1411</p>
6	<p>学校給食について</p> <p>産地の公開をお願いします。自分の子供の食べているものが把握できないのは理不尽です。前月の購入実績なら、確実に公表できるはずです。</p> <p>鹿嶋市のように、西日本の直材の発注をお願いします。地産地消推進という使命はありますが、当面は西日本産を中心に食材の発注をしております。</p> <p>給食のメニューから小魚丸ごとのようなメニューをやめてください。小魚から汚染が始まります。太平洋以外の魚を使用するのであれば良いかと思えます。</p> <p>(受付No.) 23_2096a (受付日) 平成23年5月30日</p>	<p>上尾市の小学校給食は、自校方式で実施しているため、学校により食材の産地が違っておりますが、給食で使用する食材については、国内産若しくは国内で製造された食材に限定しているところです。</p> <p>国及び生産地の自治体では、放射能汚染された食品の取り扱いに関する暫定規制値を超えた農産物などを出荷しないように指示しているため、上尾市においては、現在、市場に流通している食材の安全性には問題ないと判断しております。</p> <p>しかしながら、上尾市といたしましては、市民及び保護者の方々からお寄せいただいておりますご心配・ご不安を重く受け止め、産地を公表していく方向で検討していきたいと考えております。</p> <p>なお、学校給食のメニューは、学校栄養士が交替で作成し、献立委員会に諮り決定しております。</p> <p>(担当) 学校保健課（直通）775-9683</p>

No.	件名・内容	回答
5	<p>「子ども・若者育成支援推進法」の施行に伴う上尾市の政策について</p> <p>病気ではなく家から出られない若者の支援を望んでいます。「子ども・若者育成支援推進法」の施行に伴う上尾市の具体的な政策についてお尋ねします。</p> <p>(受付No.) 23_2083 (受付日) 平成23年5月24日</p>	<p>上尾市では、子どもや若者に関する悩みなどにつきまして、教育センター、こども支援課、少年愛護センター等のそれぞれの部署において、相談・支援等を行っております。</p> <p>特に、病気ではなく家から出られない若者の不登校やひきこもりの問題は難しく、深刻な課題であると認識しているところです。</p> <p>このたび、「子ども・若者育成支援推進法」が施行され、子どもや若者の育成・支援の総合的な推進が求められたところをございまして、法律の施行に伴い、埼玉県では情報収集を行うなど推進計画の策定に向けて準備を進めているところではございます。</p> <p>市といたしましては、埼玉県と連携を図りながら、これまで以上に、各部署や関係機関の連携を重視し、情報の共有化を図るなど、社会復帰や自立に向けた支援ができますよう検討して参りたいと考えているところではございますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>(担当) 青少年課 (直通) 776-2488</p>
4	<p>給食の柔軟な対応について</p> <p>放射能対策について国の暫定基準値はあくまで一時的な数値で、長期間摂取することは体に影響するような事を政府は認めています。</p> <p>この状況で、給食を長期間摂取し続ける事は危険だと思いますが、どう見解いたしますか。お弁当の持ち込み、水筒持参など、各自で選べるような柔軟な対応を望みます。</p> <p>(受付No.) 23_2046b (受付日) 平成23年4月27日</p>	<p>放射能汚染された食品の取り扱いに関する国の暫定基準値は、放射性ヨウ素については、飲料水・牛乳が300ベクレル/kg以内、野菜類・穀類・肉・魚などが2,000ベクレル/kg以内。また、放射性セシウムについては、飲料水・牛乳が200ベクレル/kg以内、野菜類・穀類・肉・魚などが500ベクレル/kg以内となっております。この基準値は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって国民の健康の保護を図ることを目的とする食品衛生法の観点から決められたものです。現在市場に流通している食材につきましては、この基準を満たしており、国が摂取しても安全であるとしているものです。</p> <p>上尾市では、このことを踏まえ小学校の給食を実施しているところであり、今後ともより安全で安心な食材の確保に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。</p> <p>(担当) 学校保健課 (直通) 775-9683</p>

No.	件名・内容	回答												
3	<p>食物の放射線量について</p> <p>放射性物質の暫定基準値を引き上げた食物に関してはどうお考えでしょうか。WHOの基準値と比べたら、怖くて子供には食べさせられません。風評被害でもなんでもなく本当に危険です。給食の原材料なども心配です。</p> <p>(受付No.) 23_2045c (受付日) 平成23年4月27日</p>	<p>原発事故の影響で、胎児や小さなお子さんへの放射能の影響について大変心配されていることと思います。埼玉県の「放射性物質の農産物への影響調査(第14報) 5月26日更新」では、現在、放射性物質は暫定規制値を下回っています。</p> <p>食品中の放射性物質については、平成23年4月4日に厚生労働省が策定した「地方自治体における検査計画」に基づき、各生産地の自治体で安全が確認されており、調査の結果、暫定規制値を超える放射性物質が検出された場合は、出荷制限が行われますので、現在流通している食品は危険性がないと考えております。農産物等の放射能検査の結果は厚生労働省及び埼玉県のホームページでも公開されていますのでご覧ください。</p> <p>なお、学校給食についても、これらのことを踏まえ実施しているところでございます。</p> <p>(担当) 健康推進課 (直通) 774-1411</p>												
2	<p>水道水の放射性物質について</p> <p>水道水からはいつまでも放射性物質が微量でも出ていますが、いつまで放っておくのですか。慶応付属高校の藤沢校舎は逆浸透膜の浄水器を導入しています。子供達のために教育施設にだけでも推進してはどうでしょうか。</p> <p>(受付No.) 23_2045b (受付日) 平成23年4月27日</p>	<p>上尾市が供給を受けている県営水道各浄水場の5月27日採水の測定値は以下のとおりです。</p> <p>【大久保浄水場】</p> <table border="0"> <tr> <td>放射性ヨウ素 (ヨウ素131)</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>放射性セシウム (セシウム134)</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>放射性セシウム (セシウム137)</td> <td>0.19Bq/kg</td> </tr> </table> <p>【行田浄水場】</p> <table border="0"> <tr> <td>放射性ヨウ素 (ヨウ素131)</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>放射性セシウム (セシウム134)</td> <td>不検出</td> </tr> <tr> <td>放射性セシウム (セシウム137)</td> <td>不検出</td> </tr> </table> <p>国の指標で「長時間飲み続けても健康に影響がない数値」として放射性ヨウ素300Bq/kg、放射性セシウム200Bq/kgと設定されていますので、現在のところ特別な措置を施す必要はないレベルと考えております。</p> <p>(担当) 水道部総務課 (電話) 775-5160</p>	放射性ヨウ素 (ヨウ素131)	不検出	放射性セシウム (セシウム134)	不検出	放射性セシウム (セシウム137)	0.19Bq/kg	放射性ヨウ素 (ヨウ素131)	不検出	放射性セシウム (セシウム134)	不検出	放射性セシウム (セシウム137)	不検出
放射性ヨウ素 (ヨウ素131)	不検出													
放射性セシウム (セシウム134)	不検出													
放射性セシウム (セシウム137)	0.19Bq/kg													
放射性ヨウ素 (ヨウ素131)	不検出													
放射性セシウム (セシウム134)	不検出													
放射性セシウム (セシウム137)	不検出													

No.	件名・内容	回答
1	<p>給食の見直しについて</p> <p>学校給食は必ずパンと麺の組み合わせで、総カロリーで帳尻合わせにしかみえません。アメリカンドックがおかずの時もありました。時代の流れで括ってしまうには悲しい現実です。給食見直しを早急に願うばかりです。</p> <p>(受付No.) 23_2042b (受付日) 平成23年4月25日</p>	<p>学校給食は、校長・教頭・給食主任・栄養士・調理員・PTAのメンバーで構成されている上尾市小学校給食専門委員会（献立委員会・物資委員会など）において、安心・安全な給食作りにご尽力いただいているところです。</p> <p>献立は、学校栄養士が交替で作成し献立委員会に諮り、使う食材は物資委員会で味や安全性・価格などを考慮して決定しています。</p> <p>小学校の麺は、マナー上の理由から袋入り麺を取りやめ、煮込み麺を実施しています。そのため、麺をお代わりしないと必要な栄養量を摂取できません。しかし、1杯しか食べない児童が多くいるため、パンとの組み合わせについては、献立委員会の中で給食の公平性や主食量の確保などについて議論し、決定されたものです。</p> <p>アメリカンドックについては、4月と9月に実施しています。4月は、1年生の給食が始まるので、盛り付けが簡単にでき、食べやすく、喜ぶものとして取り入れています。9月は、運動会の練習で子ども達が疲れていることから、好評であるアメリカンドックを取り入れているところです。</p> <p>(担当) 学校保健課 (直通) 775-9683</p>